

## 初年次法学教育におけるWeb教材の効果的活用法

廣瀬 清英

(受理 2020年12月4日)

Effective use of web-based teaching materials in the first year of legal education

Kiyohide HIROSE

### I. はじめに

2020年度の講義は新型コロナウイルスの影響を受けたが、岩手県では前期の講義期間に感染者が一人も現れなかったことから、他の地域の大学とは異なり、岩手医科大学では多くの講義が対面形式で実施された。しかし、従来型の講義形式での実施は、感染症予防対策として不十分であることから様々な変更が強いられた。とりわけ、接触感染防止の観点から授業回ごとの課題文書の提出や小テストの実施といったプリントを用いた形式での演習が困難となり、これまで法学の授業で実施していた学生間の相互評価も中止せざるを得なかった。そのため、前年度までの講義形式からの変更に伴い、従来とは異なる形でのICTの活用が必要となった。

本学における法学教育では、これまでに「法学教育へのICT導入による効果」<sup>1</sup>や「法学教育への反転授業の導入」<sup>2</sup>において述べてきたようにICTを導入し積極的に活用してきた。それは、わが国の多くの法学教育が座学みの形式であり、自身の受講経験もその形式だけであったことから、自身の講義をその形式から脱却させるべく模索する中で、法学を専門としない本学の学生に対し講義への興味を持たせることからスタートした。そのため、受講して楽しく、将来との接続性があり、知識の記憶定着・構造化・活用へとつなげ、最終的に自分で表現できる形を目指した講義シナリオの導入<sup>3</sup>するとともに反転授業の導入に伴いICTを積極的に活用したことが経緯であった<sup>4</sup>。

しかしながら本年度は、ソーシャルディスタンスへの配慮から学生の座席間隔を充分にとる必要もあり、前述のミニテスト同様にアクティブラーニング形式も中止せざるを得ず、対面形式の講義を行っていたものの積極的に学生との対話を実施することもほぼ困難であった。そのため、2019年度までのWebClassの解析結果や授業評価アンケートを元に講義の充実を図るべく改善予定<sup>5</sup>も見直す必要があった。

表1 医学部「法学」講義項目

2018年度以前の項目	講義回数		2019年度以降の項目	※
法律とは何か	1	1	法律とは何か	※ 2019年度以降は刑法(2)と行政法を第5回に実施  社会法は、2019年度の講義では以前の2項目を均等に扱ったが、2020年度の講義では環境法を中心に取り上げた
憲法とは何か(1)	2	2	憲法とは何か	
憲法とは何か(2)	3			
民法とは何か(1)	4	3	民法とは何か	
民法とは何か(2)	5			
刑法とは何か(1)	6	4	刑法とは何か(1)	
刑法とは何か(2)	7			
刑法とは何か(3)	8	5	刑法とは何か(2)	
裁判とは何か(1)	9	6	裁判とは何か	
裁判とは何か(2)	10			
行政法とは何か	11	5	行政法とは何か	
社会法とは何か(1)労働法	12	7	社会法とは何か	
社会法とは何か(2)環境法	13			
法政策	14	8	法政策	

## II. 講義内容及び成績評価基準の見直し

2015年度から反転授業型の講義シナリオを導入したことで、本学のe-LearningシステムであるWebClassを事前・事後学修に取り入れ、2018年度以降はGoogle Classroom<sup>6</sup>やKahoot<sup>7</sup>といったWeb教材を講義内に導入し、講義の双方向化の充実を目指した。それでも講義における評価の半分以上(医学部55%、歯・薬学部56%)は、レスポンスシート(プリント)を用いたやり取りであったが、2020年度は接触感染のリスクを避けるためプリントのやり取りを極力排除したことで、全課題のやり取りをWeb上で行うことになり、評価方法を大幅に見直さなければならなかった。特にプリントのやり取りを中止したことで、学生間の相互評価が無くなったことで(表2)にある学生によるレスポンスシートの評価(4.2点×8回)が無くなり、全てが教員のみでの評価に変更となった。全課題がWebClassに提出する形式になったことで(表3)のようにレスポンスシートの評価を簡略化するとともに、付加要素の強い自由課題以外の項目を均等に評価することとした<sup>8</sup>。

2019年度より医学部法学の講義回数は90分×14回から90分×8回に減ったが、Web教材によって教室での時間を削るだけで到達目標<sup>9</sup>を減らすことなく実施項目を確保できた。しかし、(表4)にあるように講義回数の減ったことでWeb教材の分量が増えた2019年度の医学部授業評価アンケートでは、難易度に関する評価が4.61→4.42と下がり<sup>10</sup>、歯学部との差が0.25になったことから、見直しが必要となった。2020年度は授業評価アンケートの調査方法が変更<sup>11</sup>になったため、単純に比較することができないことから評価値は参考程度にしかならないが、Web教材の分量調整を行うとともに教材分量の多い回の評価を修正したところ難易度に関する評価4.43は歯学部と同じであったことから、成績評価の見直しによる一定の効果があったと考えられる<sup>12</sup>。

「法学教育への反転授業の導入」の今後の改善点<sup>13</sup>において第7回と第8回の講義内容の変更を検討した。社会法については、2019年度は労働法と環境法を1回の講義ではほぼ同じ程度に取り上げたところ、学生の興味が減少したことから、2018年度まで評価が高かった環境法に重点をおいて取り上げたところ、(表5・6)にあるように、一番興味深かった項目については変化がなかったが、各講義回において興味を持てなかった回答は減少した。この結果から、2021年度の講義では社会法について

は環境法のみを取り上げる予定である。

表2 2019年医学部「法学」成績評価基準

項目	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
レスポンスシート	課題が未提出のままである。	誤字、句読点、文法などに関するエラーが多すぎる。	誤字、句読点、文法などに関するエラーが目立つ。	誤字・脱字、句読点、文法などに関するエラーがわずかにある。	誤字・脱字、句読点、文法などに関するエラーが全く無い。	レベル4の条件を全て満たしている時に、レベル5が適当であると教員が認めた場合。
		0.7点	0.9点	1.0点	1.2点	
		文章ではなく、箇条書きになっている。	文章構成がされていない、または単文である。	文章構成がある程度されている。	段落があるなど文章構成がしっかりしている。	
		0.7点	0.9点	1.0点	1.2点	
指定文字数の8割未満しか記載されていない、文字数の指定がない場合は、明らかに文章量が少ない。	指定文字数を超過して記載している。文字数の指定がない場合は、文章量が十分とは言えない量しか記載されていない。	指定文字数の9割には満たないが、8割以上は記載されている。文字数の指定がない場合は、一定以上の文章量がある。	指定文字数の9割以上記載し、指定文字数に収まっている。文字数の指定がない場合は、かなりの文章量で書かれている。			
4.2点×8回	0点	0.7点	0.9点	1.0点	1.2点	1.4×3=4.2点
評価内容	評価理由が全く書かれていない。 0点 評価がされていない。	誤字、句読点、文法などに関するエラーが多すぎる。	誤字、句読点、文法などに関するエラーが目立つ。	誤字・脱字、句読点、文法などに関するエラーがわずかにある。	誤字・脱字、句読点、文法などに関するエラーが全く無い。	レベル4の条件を両方とも満たした上で、自分の見解がしっかりと根拠をもって記載されている場合。
		0.6点	0.9点	1.0点	1.2点	
		評価が不適切である。あるいは評価理由がほとんど記載されていない。	評価は適切だが、評価理由の記載が少ない。	適切な評価理由が記載されている。	適切な評価理由をしっかりとした文章で記載している。	
		0.6点	0.9点	1.0点	1.2点	
2.8点×8回	0点	0.6点	0.9点	1.0点	1.2点	1.4×2=2.8点
事前学修教材	学修履歴がない。	学修開始履歴はあるが終了時刻の記録がない。	学修履歴はあるが利用時間の合計が1分未満である。	学修履歴があり、利用時間が1分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が3分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が5分以上ある。
0.9点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.5点	0.7点	0.9点
事前確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点
事後確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点
自由課題	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.6点×8回	0点	0.1点	0.3点	0.7点	1.1点	1.6点
合計点は100点を越えないものとする	期日に遅れても、要件を満たし提出した場合。 1レベルダウン	遅刻・欠席の合算 遅刻減点 1回につき-7.5点		欠席3回 (遅刻2回=欠席1回) 不合格	不正が発覚した場合 不合格	合計点が 60点以上→合格 60点未満→不合格

表3 2020年医学部「法学」成績評価基準

項目	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
事前学修教材	学修履歴がない。	学修開始履歴はあるが終了時刻の記録がない。	学修履歴はあるが利用時間の合計が1分未満である。	学修履歴があり、利用時間が1分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が3分以上ある。	学修履歴があり、利用時間が5分以上ある。
1.5点×2回	0点	0.3点	0.6点	0.9点	1.2点	1.5点
3.0点×6回	0点	0.6点	1.2点	1.8点	2.4点	3.0点
事前確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.5点×2回	0点	0.3点	0.6点	0.9点	1.2点	1.5点
3.0点×6回	0点	0.6点	1.2点	1.8点	2.4点	3.0点
レスポンスシート回答	期間内にWebClassへの回答がなかった。	実施していたが、一部未回答だった。	全てに回答。指定文字数の8割未満しか記載されていない。文字数の指定がない場合は、明らかに文章量が少ない。	全てに回答。指定文字数を超過して記載している。文字数の指定がない場合は、文章量が十分とは言えない量しか記載されていない。	全てに回答。指定文字数の9割には満たないが、8割以上は記載されている。文字数の指定がない場合は、一定以上の文章量がある。	全てに回答。指定文字数の9割以上記載し、指定文字数に収まっている。文字数の指定がない場合は、かなりの文章量で書かれている。
1.5点×2回	0点	0.3点	0.6点	0.9点	1.2点	1.5点
3.0点×6回	0点	0.6点	1.2点	1.8点	2.4点	3.0点
事後確認テスト	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.5点×1回	0点	0.3点	0.6点	0.9点	1.2点	1.5点
3.0点×6回	0点	0.6点	1.2点	1.8点	2.4点	3.0点
3.5点×1回	0点	2.3点	-	-	-	3.5点
自由課題	期間内にテストを実施しなかった。	テストを実施したが、一部未解答だった。	テストを1回実施し、全間に解答した。	合格点ではないが複数回実施し、全間に解答した。	合格点に到達するまでテストを繰り返し実施した。	全問正解するまでテストを繰り返し実施した。
1.0点×2回	0点	0.2点	0.4点	0.6点	0.8点	1.0点
2.0点×6回	0点	0.4点	0.8点	1.2点	1.6点	2.0点
合計点は100点を越えないものとする	要件を満たし提出していても期日に遅れた場合。 1レベルダウン	遅刻・欠席 遅刻減点 1回につき-8点		欠席3回 (遅刻2回=欠席1回) 不合格	不正が発覚した場合 不合格	合計点が 60点以上→合格 60点未満→不合格

通常の講義形式でなくなった場合、出欠確認はWebClassの教材で時間設定を行い、その時間のアクセスで判断します。

小数点以下切り捨て

注) 全ての1回目と事後確認テストを除く8回目は1.5点満点、全ての2~6回目は3.0点満点、事後確認テストの8回目は3.5点満点。

表4 授業評価アンケート結果→全16項目中6項目を抽出

評価項目	学部	医学部			歯学部		
	年度	2018	2019	2020	2018	2019	2020
授業はよく準備がなされていたか		4.77	4.73	4.62	4.88	4.84	4.67
授業の難易度は適切だったか		4.61	4.42	4.43	4.63	4.67	4.43
授業は学生の理解に合わせて進められたか		4.57	4.37	4.33	4.63	4.60	4.29
授業の配布資料・教科書などは適切だったか		4.65	4.50	4.35	4.71	4.81	4.46
学習意欲が刺激される授業内容だったか		4.50	4.44	4.45	4.69	4.79	4.42
この授業の総合評価を示してください		4.66	4.46	4.47	4.76	4.79	4.52

※2020年度は調査方法が前年度までとは異なるため参考数値

表5 WebClass授業改善用 受講生調査—全講義回の中で一番興味深かったのはどれか

評価者数		20年度医学部		19年度医学部		18年度医学部	
		124人		77人		79人	
社会法とは何か	(1)労働法	13人	10.5%	9人	11.7%	4人	5.1%
	(2)環境法					19人	24.1%
法政策とは何か		6人	4.8%	5人	6.5%	8人	10.1%

※WebClass授業改善用 受講生調査については、調査方法の変更なし

表6 WebClass授業改善用 受講生調査—社会法・法政策の感想

			興味深かった		興味を持てなかった		どちらでもなかった	
18年	12回	労働法	69人	87.3%	6人	7.6%	4人	5.1%
	13回	環境法	68人	86.1%	9人	11.4%	2人	2.5%
	14回	法政策	68人	86.1%	8人	10.1%	3人	3.8%
19年	7回	社会法	56人	72.7%	10人	13.0%	11人	14.3%
	8回	法政策	59人	76.6%	6人	7.8%	12人	15.6%
20年	7回	社会法	94人	75.8%	11人	8.9%	19人	15.3%
	8回	法政策	101人	81.5%	8人	6.5%	14人	11.3%

### Ⅲ. 課題提出方法の工夫

2019年度までは評価にレスポンスシートを用いた学生間の相互評価も実施していたことから、課題はWeb教材とプリント教材が併用であった。そのため、講義の場で提出しなければならないことからプリント教材の実施率は高く、2019年度は全体で99.4%、一番低かった講義回でも98.4%であった。その一方でWeb教材全体の実施率は89.1%、一番実施率の低かったものは61.1%とプリント教材とでは大きく差が開いていた。

2020年度はプリント教材であったレスポンスシートをWeb教材として実施したことで全ての課題がWeb教材になった。その結果、レスポンスシートの実施率は全体で96.7%、一番低かった講義回では92.5%と2019年度のプリント教材から下がったものの、Web教材全体の実施率は97.2%、一番低かったものが92.5%と大幅に向上した。「法学教育への反転授業の導入」の今後の改善点において、事後学修課題の見直しを挙げていたが、全ての評価がWeb教材になったことで、学生が集中できたと考えられる。

また、最終講義回の事後テストと自由課題の実施率の低下が毎年見られたが、2020年度は本来なら評価は1.5点のところ、アンケートへの協力ポイントとして2.0点の加点を行ったところ、事後テストの実施率は61.1%から97.4%、自由課題の実施率は70.6%から97.1%とどちらも大幅に向上した。

今回の見直しでWeb教材の実施率の向上については一定の成果を得られたが、今年度特有の学修環境が影響している可能性もあることから、今後も推移を見守る必要がある。

表7 2019年度医学部課題実施状況

履修 126人	Web教材								プリント教材	
	事前教材		事前テスト		事後テスト		自由課題		レスポンスシート	
1回	126	100%	126	100%	113	89.7%	109	86.5%	126	100%
2回	124	98.4%	120	95.2%	105	83.3%	97	77.0%	124	98.4%
3回	117	92.9%	108	85.7%	110	87.3%	110	87.3%	124	98.4%
4回	120	95.2%	115	91.3%	111	88.1%	111	88.1%	126	100%
5回	115	91.3%	113	89.7%	116	92.1%	120	95.2%	126	100%
6回	111	88.1%	113	89.7%	118	93.7%	102	81.0%	126	100%
7回	117	92.9%	119	94.4%	116	92.1%	111	88.1%	126	100%
8回	117	92.9%	117	92.9%	77	61.1%	89	70.6%	124	98.4%
平均	118.4	94.0%	116.4	92.4%	108.3	86.0%	106.1	84.2%	125.3	99.4%

表8 2020年度医学部課題実施状況

履修 133人	Web教材								プリント教材	
	事前教材		事前テスト		事後テスト		自由課題		レスポンスシート	
1回	132	99.2%	133	100%	131	98.5%	131	98.5%	133	100%
2回	131	98.5%	133	100%	133	100%	133	100%	133	100%
3回	131	98.5%	131	98.5%	130	97.7%	128	96.2%	130	97.7%
4回	130	97.7%	129	97.0%	130	97.7%	130	97.7%	123	92.5%
5回	129	97.0%	128	96.2%	129	97.0%	130	97.7%	127	95.5%
6回	123	92.5%	127	95.5%	130	97.7%	128	96.2%	126	94.7%
7回	128	96.2%	131	98.5%	129	97.0%	128	96.2%	129	97.0%
8回	128	96.2%	130	97.7%	124	93.2%	125	94.0%	128	96.2%
平均	129	97.0%	130	97.9%	129.5	97.4%	129.1	97.1%	128.6	96.7%

#### IV. 講義でのWeb教材の活用

2019年度に講義へ実験的に導入したKahoot!は正解数だけでなく解答の速さも評価され参加者のランキングが1問ごとに更新されて画面に表示されることから、毎回講義内容の復習として用いたことで講義全体への集中力につながったとの感想がWebClass授業改善用アンケートにもあったことから、2020年度はさらに問題を充実させた。平均で70.2%、一番低かった講義回は57.3%であった前年度の参加率を向上させるための見直しとして、①確認テストを成績評価へ組み入れること、②講義の最後だけではなく講義中適宜用いることについては、今年度の特殊の状況から見送った。しかし、2020年度はシラバスの特記事項に、各自の端末のブラウザにブックマーク登録を行うかアプリをダウンロードしておくことを明記したことと、全ての課題がWeb教材となり端末との連動が順調に行われたことで、2020年度の参加率は平均で94.5%、一番低かった回でも84.2%と大幅に改善した<sup>14</sup>。ID登録の有無<sup>15</sup>も参加率に大きな影響を与えていたが、スマートフォン専用のアプリがなかったGoogle Classroomと異なり、アプリが用意されているKahoot!は参加しやすかったことから、講義で用いるWeb教材はアプリがある方が参加率向上を見込めるようである。

表9 医学部1年「法学」Kahoot!確認テスト参加状況

		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	平均
2019年度	出席者数	126	124	125	126	126	126	126	124	125.4
	参加数	73	105	99	98	92	85	81	71	88.0
	参加率	57.9%	84.7%	79.2%	77.8%	73.0%	67.5%	64.2%	57.3%	70.2%
2020年度	出席者数	133	133	133	133	132	132	130	130	132.0
	参加数	112	128	119	129	130	126	127	127	124.8
	参加率	84.2%	96.2%	89.5%	97.0%	98.5%	95.5%	97.7%	97.7%	94.5%

#### V. 今後の改善点

2020年度は必修である法学ではレスポンスシートの評価をWebで行ったものの、その評価は全体を評価するのみで、課題そのものに詳細な採点形式を導入することは見送ったが、選択科目である「医療と法律」などで文章形式によるルーブリック評価による詳細な採点を導入した(表11)。授業評価アンケートにある学習意欲への刺激という点を考慮すれば、レスポンスシートの形式を2020年度のアンケート形式に近い実施したことで多くの評価が得られるものを変更する必要があると考える。

また、医学部に関しては4年「医事法学」と連動させることも今後の検討課題である。医事法学では既に多くのWeb教材を用意していることから、1年法学で対応できる問題を取り入れたい。

表10 2020年度「医療と法律」成績評価基準

項目 評価基準	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
課題	課題が未提出、あるいは、ほとんど記載されていないまま提出	誤字、句読点、文法などに関するエラーが多すぎる 0.4点	誤字、句読点、文法などに関するエラーが目立つ 0.8点	誤字・脱字、句読点、文法などに関するエラーがわずかである 1.0点	誤字・脱字、句読点、文法などに関してエラーが全く無い 1.2点	レベル4の条件を全て満たした時に、レベル5が適当であると教員が判断した場合
		文章でなく箇条書きになっている 0.4点	文章構成がされていない、または単文である 0.8点	文章構成がある程度されている 1.0点	段落があるなど文章構成がしっかりしている 1.2点	
		500字未満しか記載されていない 0.4点	600字を超えて記載している 0.8点	540字には満たないが500字以上は記載されている 1.0点	540字以上記載し、600字以内に収まっている 1.2点	
		提出期限に遅れた 0.4点	**	**	提出期限を守った 1.2点	
		6.0点×10回	0点	0.4点	**	
小テスト	期間内に小テストを行わなかった 0点	小テストを実施したが一部未解答である 0.2点	**	**	小テストを実施し全問に解答した 0.8点	全てが正解するまで小テストを実施した 1.0点
確認テスト	期間内に確認テストを行わなかった 0点	確認テストを実施したが一部未解答である 0.4点	確認テストを1回実施し全問に回答した 0.8点	合格点でないが確認テストを複数回実施し全問に解答した 1.0点	合格点に到達するまで確認テストを実施した 1.6点	全てが正解するまで確認テストを実施した 2.0点
ビブリオバトル	コンテンツシートが未提出である 0点	①の要件を満たしていないコンテンツシートを遅れて提出 0.4点	**	①の要件を満たしていないコンテンツシートを期限内に提出 1.0点	①の要件を満たしたコンテンツシートを期限内に遅れて提出 1.6点	①の要件(270字以上300字以内)を満たし期限内に提出 2.0点
		②の要件を満たしていないコンテンツシートを遅れて提出 0.4点	**	②の要件を満たしていないコンテンツシートを期限内に提出 1.0点	②の要件を満たしたコンテンツシートを期限内に遅れて提出 1.6点	②の要件(270字以上300字以内)を満たし期限内に提出 2.0点
		4.0点×1回	0点	0.4点	**	1.0点

状況によっては、ビブリオバトルについて2~10回目の講義内で希望者によるプレバトルを実施予定(各回2名程度)。参加者には2点加算する。

合計点が60点以上を合格とし、60点未満は不合格とする  
合計点は100点を超えないものとする

遅刻(早退)・欠席の合算で2回目以降	欠席5回 (遅刻2回=欠席1回)	不正が発覚した場合
遅刻(早退)減点 1回につき-5点	欠席減点 1回につき-10点	不合格

退室時間が長い者も減点対象とする

表11 WebClass上の課題評価ページ

2020年度 医療と法律 第3回課題 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

薬物治療について、説明しなさい。

[レポート提出]

最大アップロードファイルサイズ 300 MB

---

### 採点

提出されたファイル

採点ルーブリック

点数

	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0
誤字・脱字	<input type="radio"/> レベル4の条件を全て満たした時に、レベル5が適当であると教員が判断した場合	<input type="radio"/> 誤字・脱字、句読点、文法などに関してエラーが全く無い	<input type="radio"/> 誤字・脱字、句読点、文法などに関してエラーがわずかである	<input type="radio"/> 誤字、句読点、文法などに関してエラーが目立つ	<input type="radio"/> 誤字、句読点、文法などに関してのエラーが多すぎる	<input type="radio"/> 課題が未提出、あるいは、ほとんど記載されていないまま提出
文章構成	<input type="radio"/> レベル4の条件を全て満たした時に、レベル5が適当であると教員が判断した場合	<input type="radio"/> 段落があるなど文章構成がしっかりしている	<input type="radio"/> 文章構成がある程度されている	<input type="radio"/> 文章構成がされていない、または単文である	<input type="radio"/> 文章でなく箇条書きになっている	<input type="radio"/> 課題が未提出、あるいは、ほとんど記載されていないまま提出
字数	<input type="radio"/> レベル4の条件を全て満たした時に、レベル5が適当であると教員が判断した場合	<input type="radio"/> 540字以上記載し、600字以内に収まっている	<input type="radio"/> 540字には満たないが500字以上は記載されている	<input type="radio"/> 600字を超えて記載している	<input type="radio"/> 500字未満しか記載されていない	<input type="radio"/> 課題が未提出、あるいは、ほとんど記載されていないまま提出
提出期限	<input type="radio"/> レベル4の条件を全て満たした時に、レベル5が適当であると教員が判断した場合	<input type="radio"/> 提出期限を守った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 提出期限に遅れた	<input type="radio"/> 課題が未提出、あるいは、ほとんど記載されていないまま提出

レポートへのコメントを入力できます。

- <sup>1</sup> 岩手医科大学教養教育研究年報52号63-80頁（2017年），初年次教育学会第11回大会発表（2018年9月5日酪農学園大学）
- <sup>2</sup> 岩手医科大学教養教育研究年報54号47-56頁（2019年），初年次教育学会第12回大会発表（2019年9月8日創価大学）
- <sup>3</sup> 岩手医科大学教養教育研究年報52号66頁（2017年）  
シナリオ作成の要点①考えさせる，②教え込まない，③テキストに頼らない，④長い映像はダメ（5分程度が望ましい），⑤対話する，⑥学生の反応を見る，⑦学生のレベルを事前に配慮する，⑧話し込むのは体験談（出来れば失敗談が望ましい），⑨教材準備は惜しまないこと，⑩実社会との関係を重視，⑪最先端の研究を盛り込むこと。
- <sup>4</sup> 岩手医科大学医学部2020年度1年「法学」教育成果（アウトカム）は，現行法について，学問としての法学だけでなく，教養として必要な法律に関する基礎知識を修得することで，「法的なもの（リーガルマインド）」と「法を知り使いこなす力（リーガルリテラシー）」を身につけ，法的三段論法を用いて，日常の具体的な事例について文章で表現できることとした。
- <sup>5</sup> 岩手医科大学教養教育研究年報54号53頁（2019年）
1. 講義項目の見直し
  2. 事後学修課題の見直し
  3. Kahoot! 参加率向上のための見直し
- <sup>6</sup> <https://classroom.google.com/>
- <sup>7</sup> <https://kahoot.com/> ブラウザはGoogle Chromeが使いやすい
- <sup>8</sup> 2020年度医学部成績は，最高100点，最低62点，不合格者なし，平均91.7点（2019年度は最高100点，最低41点，不合格者1名，平均82.0点）
- <sup>9</sup> 岩手医科大学医学部2020年度1年「法学」到達目標は以下の通りである。
- 法的三段論法
1. 法的三段論法について理解し，活用することができる。
  2. リーガルマインドとリーガルリテラシーにより，法的三段論法を用いて具体的な事例について文章で表現できる。
- リーガルマインド
1. 法の全体像を把握し，実定法のルール及び概念について，その意味を理解し，具体例及び定義を説明できる。
  2. 法の基礎にある原理を理解し，広い視野から法を分析的に見ることができる。
  3. 法の体系と社会の関係について考察し，基本的な法的思考法を身につけ，活用することができる。
- リーガルリテラシー
1. 社会と人間（憲法を中心とする公法）の関係を説明できる。
  2. 社会のなかの人間（民法を中心とする私法）を説明できる。
  3. 社会で遵守すべきこと（刑法を中心とする刑事法）を説明できる。
  4. 社会のなかの方の役割（裁判員制度や労働法などの社会法）を説明できる。
  5. 法政策について，法的知識を活用することで，紛争の予防及び生活や社会の発展のためのプランを立案し，説明できる。
- <sup>10</sup> 講義回数の変更がなかった2019年度の歯学部の授業の難易度の評価は4.63→4.67と上げているこ

とから、1回ごとのWeb教材の分量に難があったと思われる。

- <sup>11</sup> 5段階評価に変更はなかったが、自由に評価させていた状況から2020年度の評価は3を基準にするよう変更された。また、学生自身の理解度に関する項目が削除されるなど項目の変更もあった。

- <sup>12</sup> 2016年度以降の1年「法学」総合評価

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
医学部	4.53	4.50	4.66	4.46	4.47
歯学部	4.50	4.48	4.69	4.79	4.52

- <sup>13</sup> 岩手医科大学教養教育研究年報54号54頁（2019年）

- <sup>14</sup> 同時期に開講した2020年度歯学部のKahoot!参加率（カッコ内は2019年度）は、平均96.0%（88.7%）、一番低かった回が90.8%（82.4%）。

2020年度歯学部講義回ごとのKahoot!参加状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
出席数	63	65	65	65	64	65	65
参加数	63	63	64	64	63	62	63
参加率	100%	96.9%	98.5%	98.5%	98.4%	95.4%	96.9%

第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	平均
65	65	64	64	64	65	60	64.2
60	61	60	61	63	59	57	61.6
92.3%	93.8%	93.8%	95.3%	98.4%	90.8%	95.0%	96.0%

- <sup>15</sup> 既にGoogleのコンテンツを個人的に使用している学生が参加を躊躇うようであった。